



永尾光一（ながお・こういち）
東邦大学医学部泌尿器科学講座
リプロダクションセンター教授 医学博士
昭和大学大学院医学研究科修了。形成外科および泌尿器科専門医。EDや、生殖医学領域の形成外科的手術を含む男性不妊治療に注力。2009年より現職。著書に「EDは治療で治る病気」ほか。

EDとそれに伴う深刻なリスクにPDE5阻害剤が有効

将来の重病を示唆するマーカー

EDの治療こそみなぎる活力の源泉

ED（勃起障害）の陰に潜んださらなる危険性を、中年男性は認識しておいたほうがいい。その詳細とリスク回避への道について、東邦大学医学部泌尿器科学講座・教授で、同大学医療センター大森病院のED・男性不妊外来を担当する永尾光一先生に聞いた。

**四十代の五人に一人がED
五十代では二倍に増加**

四十代以上の読者諸氏は、きっと企業をはじめ組織の中核層として日々活躍し、最高レベルの責任を背負う立場にあることだろう。その半面、いろいろと体の衰えを感じざるを得なくなってきたことも否めないのではなからうか。

ED（勃起障害）も四十代を迎える则有病率のアップが顕著で、中高年男性にとって他人事ではすまなくなる。まずEDの定義を、東邦大学医学部泌尿器科学講座・教授の永尾光一先生が次のように説明してくれた。

「専門的にいえば、EDは『性交時に十分な勃起が得られないため、あるいは十分な勃起が維持できないため満足な性交が行えない状態』です。円満な夫婦関係のためには、たとえ月に一回

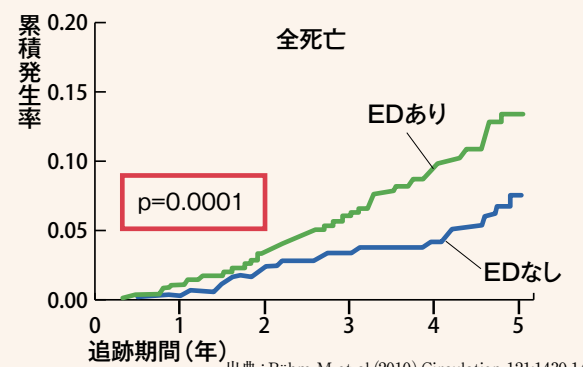
半年に一回でも性行為を続けるのがいいでしょう。また、女性側が望むタイミングに合わせることも大切です。そ

れがEDとなると難しくなりますね。治療を受けているかどうかは別として、日本におけるED患者さんの数は約

一三〇万人といわれています。患者数は東京都の全人口に迫るくらいというほどだから決して少なくない。これには「たまたま勃起できる」「性交中の勃起は維持できる」という中等度EDも含まれており、「四十代の五人に一人」「五十代の二・五人に一人」、全年代（三十〜七十代）では四人に一人がEDを抱えているのが現状だ。

ところが、永尾先生によれば「治療を受けている患者さんは約5%にすぎない」。受けない理由は「病院に行くのは気が引ける」とか「年齢的にもう仕方ない」といった類がほとんどだ。しかし中高年世代のEDは、きわめて重大な病気の予兆である可能性も否定できないことを知るべきだ。

① 心血管系疾患患者（男性）の死亡発生率



心血管系疾患にEDを併発している男性の死亡発生率は、併発していない男性よりも高い(ED治療をしていない集団の調査 n=1519)。5年ではほぼ2倍の高さに。

② EDは、心血管系疾患のマーカー

Artery (動脈)	Lumen Diameter (内径)
Penis (陰茎動脈)	1—2mm
Coronary (冠状動脈)	3—4mm
Carotid (頸動脈)	5—7mm
Femoral (大腿部動脈)	6—8mm

出典: Montorsi P et al (2003) Eur Urol 44:352-35

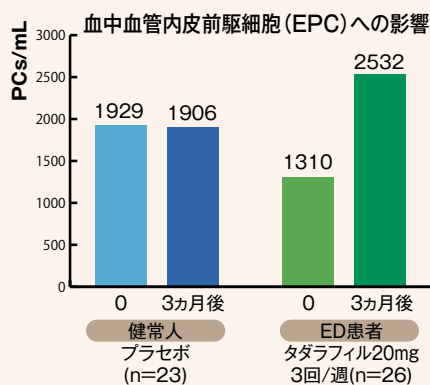
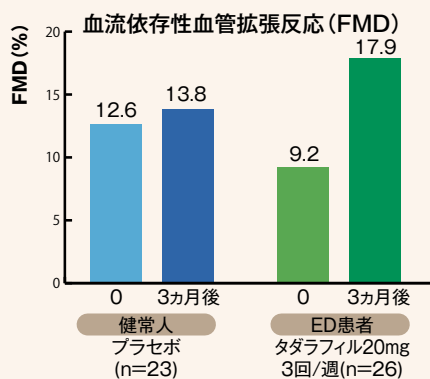
陰茎動脈の内径は小さいため、動脈硬化がEDとして早めに自覚される。他の動脈でも血管障害が顕在化するの、時間の問題とも推測される。

EDを自覚し始めたら 数年後の心臓にも要注意

上図の①を見てほしい。「心血管系疾患患者(男性)の死亡発生率」だ。時間の流れとともに、EDを併発している患者の死亡発生率は、併発していない患者より高くなるのが分かる(ただしED治療を受けていない集団)。命のリスクがより深刻化することは歴然だ。この点について、再び永尾先生の解説を聞こう。

「中高年のEDの原因としては、陰茎動脈の硬化で血流が悪くなるのが大きい。陰茎動脈は内径が一〜二ミで非

③ PDE5阻害剤タダラフィルの血管内皮機能改善作用



出典: Foresta C et al (2006) Int J Impot Res 18, 484-488

っており、動脈硬化の予防にもつながります」

例えば、肺動脈が細くなり心不全に至る難病「肺動脈性肺高血圧症」の改善薬として、PDE5阻害剤が承認されている。また、糖尿病・無自覚の心血管疾患・EDの三つを合併した患者の治療にPDE5阻害剤を併用し、突然死を含む重篤な心臓疾患の発生率を低減できた、とのデータもある。

「この薬は、『血管を若返らせてくれる薬』と呼んでもいいと思います。継続的に使用すれば、EDだけでなく命に直接かかわる病気の予防にも役立ってくれるのです」

偽造医薬品に注意

インターネット販売を通じたPDE5阻害剤の入手については、永尾先生は警鐘を強く鳴らす。

「ネット販売の実態調査(偽造ED医薬品四社合同調査)では、五割以上が偽物との結果が出ています。健康被害をもたらしたり、外国では死亡例もあります。また偽物で効果が得られず、治療をあきらめる残念なケースもあります。PDE5阻害剤は、医師の診断・処方のもとに使い、円満な夫婦関係はもとより、全身の老化予防に役立てて下さい」

EDの治療には「PDE5阻害剤」を使うことが多い。血流を改善し、勃起とその維持を助ける薬だ。

「効果の持続時間などによって三種類ありますが、なかでも『ウィイクエンドビル』とも呼ばれ、効き目が三六時間続く薬があります。土曜日の夕方に服用すれば、日曜日の晩まで有効というわけです」

しかもPDE5阻害剤によるED治療は、動脈硬化に伴う重大な事態の予防にも貢献するという。

「その服用によって、血管の拡張機能が向上したり、血管の修復細胞が増えます(右図③参照)。陰茎動脈への効果だけにとどまらないことも分かっています」

常に細いため、いわば血管内のゴミによって詰まりやすいのです。一方、心臓の冠状動脈は内径が三〜四、あっていくらか太い。その分、動脈硬化による疾患は遅く出ると考えられます。要は時間の問題。したがって『EDは将来の心血管系疾患の重要なマーカー』なのです(右図②参照)」

これを裏づける具体的な調査報告は数多くなされており、例えば心血管系疾患の自覚症状がないED患者ら(四十〜六十代)に負荷心電図検査を実施したところ、五六%に異常が発見されたという。

「さらに、中高年の方がEDを自覚すると、約二年半後には狭心症発作を起こすという予測データもあるのです」

EDを放置する。それはかなり危険な選択だと認識したほうがいい。

PDE5阻害剤の一つであるタダラフィル(一般名)投与群は、3ヵ月後に血管の拡張機能が改善し、血管修復に関する血管内皮前駆細胞が増加した。このことからPDE5阻害剤は陰茎以外の動脈にも好ましい影響を与えると考えられる。

心血管系疾患の予防にも寄与 ED治療薬「PDE5阻害剤」